

原著論文【国内雑誌】

67	末吉益雄. 牛の環境衛生のポイント. 臨床獣医. in press, 緑書房. (2023)
66	末吉益雄. 口蹄疫発生現場の実態と繰り返さないためには. JASV 会報.32:2-5(2023)
65	末吉益雄. 腸管の仕組みと大腸菌症の基礎. 養豚界, 57(1):28-34(2022), 緑書房.
64	Lin Cherry San, 上村涼子, 末吉益雄. The effect of Hypochlorous acid water on biofilm bacteria. 家畜衛生学雑誌, 47(3): 154-155. 2021.
63	鳥越克馬, 上村涼子, 井口 純, 丹羽秀和, 末吉益雄. 2001～2017年に国内のサラブレッド競走馬の肺炎症例から分離された腸管外病原性大腸菌に関する研究. 家畜衛生学雑誌, 47(3): 162-163. 2021.
62	佐々木羊介, 川畑忠祐, 末吉益雄. PED ウイルスに暴露された生産ステージ間におけるその後の母豚の繁殖成績への影響の比較. 日本豚病臨床研究会会誌.80: 87-97(2021.5.14)
61	末吉益雄, 佐々木羊介. 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響 (大学編). 日本豚病臨床研究会会誌.80: 3-9(2021.5.14)
60	末吉益雄. 畜産現場のバイオセキュリティを考える, ～農場での効果的な消毒について～臨床獣医. 39(1):28-32, 緑書房. (2021)
59	末吉益雄. 家畜の飼養衛生管理基準の改正について. 臨床獣医. 39(1):33-38, 緑書房. (2021)
58	末吉益雄. 豚熱(CSF)・アフリカ豚熱(ASF) と野生イノシシ対策. ピッグジャーナル.23(5): 14-20. (2020)
57	末吉益雄. 養豚におけるプロバイオティクスの有効活用. 養豚の友. 日本畜産振興会,612,3:24-27 (2020)
56	末吉益雄. 口蹄疫の振り返り、CSF・ASF の脅威とバイオセキュリティ強化～越境性伝染病から農場を守るには～. ピッグジャーナル.23(1): 32-37. 2020
55	末吉益雄. ローソニア研究の変遷と最新知見 ～第 1 回ゴードン・ローソン記念シンポジウム～. 養豚界, 55(1):78-81(2020). 緑書房.
54	末吉益雄. 豚コレラ発生で見えてくる国、地域、農場の防疫. 養豚界 54(11):25-29(2019), 緑書房
53	末吉益雄. 離乳直後の消化管で何が起きているか. ピッグジャーナル. 22,8: 14-19(2019).アニマル・メディア社
52	末吉益雄. 動物を衛るための研究. 臨床獣医. 37(1):94-95, 緑書房. (2019.1)
51	末吉益雄. 越境性豚伝染病から豚を守る. ピッグジャーナル. 21,11: 14-22(2018).アニマル・メディア社
50	末吉益雄. 削蹄でも伝播するリスクがないとは言えない牛白血病! 対策上の留意点. 蹄, 263:13-16(2018). 日本装削蹄協会.
49	末吉益雄. 産業動物におけるアニマルウェルフェア. 岐阜県獣医師会会報. 59(1): 4-6 (2018).
48	末吉益雄. 消化管の健全性維持が豚の健康にもたらす影響. 養豚界 53(1):20-24(2018), 緑書房.
47	末吉益雄. 豚流行性下痢(PED)の発生状況と対策. 臨床獣医. 35(12):8-14, 緑書房. (2017.11)
46	末吉益雄. 抗菌性物質の慎重使用とプロバイオティクスの活用. 養豚の友. 日本畜産振興会, 581, 8: 20-24 (2017)
45	伊藤博哉, 末吉益雄. 豚胸膜肺炎菌 (<i>Actinobacillus pleuropneumoniae</i>) 血清型 1, 2, 5, 7 及び 15 の型別用マルチプレックス PCR の開発. 畜産技術. 2:2-4(2017)
44	末吉益雄. 家畜のブラキスピラ症の病理(日本ブラキスピラ学会賞受賞講演). 日本ブラキスピラ学会報.7:49-54(2017)
43	末吉益雄. 近隣諸国の豚関連伝染病の発生状況. JASV 会報.25:11-13(2016)
42	佐々木羊介, 関口敏, 末吉益雄. PED 感染拡大リスク因子の豚臨研アンケート調査結果 (2 期目 : 2014 年 9 月～2015 年 8 月) . 日本豚病臨床研究会会誌. 71: 19-44(2016)
41	末吉益雄. PED の今. 日本と世界. ピッグジャーナル. 19(8):36-41(2016).アニマル・メディア社
40	佐々木羊介, 関口敏, 末吉益雄. PED 感染拡大リスク因子および PED 発生対応の豚臨研アンケート調査結果 (2013 年 11 月～2014 年 8 月) . 日本豚病臨床研究会会誌. 70: 3-32(2016)

39	末吉益雄, 佐藤俊介, 上村涼子. 牛と豚の生産性向上のための環境を考える. 豚病を減らす豚舎環境作り-新たなチャレンジ~光触媒素材による豚舎環境微生物の低減化と消臭試験~. 獣医畜産新報. 68(6): 425-431(2015)
38	末吉益雄. 豚流行性下痢(PED)感染拡大と地域および農場バイオセキュリティの検証. 日本養豚開業獣医師協会会報, 21:19-26(2014)
37	末吉益雄. 特集 PED, それぞれの経験を次に活かす! PED 疫学調査で見えたこと, 今後の課題. ピッグジャーナル. 17(12):19-23(2014).アニマル・メディア社
36	末吉益雄. 特集 PED の感染を阻止せよ! PED とはどんな疾病か?. ピッグジャーナル. 17(2):12-15(2014).アニマル・メディア社
35	末吉益雄. 豚流行性下痢 : 過去と 2013-2014 年の発生の比較. 日本養豚開業獣医師協会会報, 20:8-11(2014)
34	佐々木 羊介, 末吉益雄. 宮崎県の口蹄疫被災地域における口蹄疫発生前後の養豚生産性の比較 -特定疾病(オーエスキー病/豚繁殖呼吸障害症候群)フリーの効果-. 畜産技術協会, 699号(8):2-6(2013).(2013.8.1) 畜産技術協会
33	末吉益雄. 肥育豚の腸炎とそのモニタリング方法と対策. 家畜診療, 60(3): 131-136(2013).(2013.3.1) 全国農業共済協会
32	末吉益雄見落としていませんか?豚のレプトスピラ症. 養豚界, 47(10):46-48(2012.9.1). 緑書房
31	蒔田浩平, 辻厚史, 香岐佳浩, 牛島留理, 芳賀猛, 末吉益雄. 獣医師による 2010 年宮崎口蹄疫の侵入および発生拡大に関連した要因, 畜産の研究, 66(6), 599-604, (2012)
30	大宅辰夫, 末吉益雄. 豚赤痢と類似疾病に関する最近の知見. ブラキスピラ, 3(1):44-51(2012)
29	末吉益雄. 特集 腸の健康と下痢の克服 下痢を起こす主な病原体とその病原性 細菌性下痢. ピッグジャーナル. 15(4):16-22(2012).アニマル・メディア社
28	末吉益雄, 上村涼子. 口蹄疫災害を繰り返さないために.~発生現地の視点から~. 養豚の友, 12:12-17(2011)(2011.12.1)
27	末吉益雄, 上村涼子.2010 年の口蹄疫被災地における防疫業務の実際.獣医畜産新報. 64(12):985-989(2011)
26	末吉益雄. 大腸菌症による下痢から子豚を守ろう. 養豚の友, 6:36-41(2011)(2011.6.1)
25	末吉益雄, 平田あゆみ. 見えない敵「ローソニア」を斬る! 知られていない PPE の現状. 養豚界, 46(4):66-67(2011.4.1)
24	末吉益雄. 口蹄疫の概要と問題点-その時, 何ができたのか-.農業協同組合経営実務, 2月号:4-17(2011.2). 全国共同出版株式会社
23	末吉益雄. 口蹄疫 発生現地防疫の渦中から考える -地域防疫を機能させるために取り組むべきこと-. 養豚界, 45(10):23-25(2010)緑書房
22	末吉益雄. 新生! 川南クリーンポークへの道. ピッグジャーナル. 13(7):12-15(2010).アニマル・メディア社
21	末吉益雄. 問われる防疫力とリスク管理. みやざきアグリッシュ. 5月号, Vol.28, 2-3(2010).JA 宮崎中央畜産会
20	末吉益雄. なぜ下痢は起きるのか. ピッグジャーナル. 12(3):16-19(2009)
19	末吉益雄. 肉用子牛を丈夫に育てる.「群」コントロールの前に「個」への優しさ. 臨床獣医, 25(7):3, 8-12(2007).(2007.7.1)
18	末吉益雄. シンプルな衛生対策が疾病予防の基本. ピッグジャーナル. 7:122(2006)
17	湯元 稔, 末吉益雄, 永友寛司, 有川彰信, 坂下満明, 黒川 知. コリスチンの飼料添加による離乳豚の腸内細菌叢への影響. 臨床獣医. 21(5):58-60(2003)
16	末吉益雄. 発酵飼料による子牛下痢症低減. 牧草と園芸. 49(10):1-4(2001)
15	末吉益雄. 黒毛和牛生産農場における大腸菌 O157 根絶計画. 平成 11 年度食肉に関する助成研究調査成果報告書. 18:97-101(2000). (財, 伊藤記念財団)
14	中澤宗生, 鮫島俊哉, 秋庭正人, 末吉益雄. 志賀毒素産生性大腸菌の家畜大腸菌症における分布と下痢原性. 獣医畜産新報. 50:655-658(1997)

13	末吉益雄. 牛に関連する人畜共通伝染病とその対策. 肉牛ジャーナル.10:20-27(1997)
12	末吉益雄. 豚流行性下痢(PED)の診断法.畜産技術普及指導用リーフレット.No.68. (1997)
11	末吉益雄. 日本の PED の発生状況とその疫学的特徴.All about swine.9:2-9(1996)
10	末吉益雄. 最近話題の病原性大腸菌-ヒトと牛-. 畜産コンサルタント.32:31-35(1996)
9	末吉益雄. 豚流行性下痢(PED)-現状とその病理学的側面.東北家畜衛生協議会集録. 24:2-5(1996)
8	末吉益雄. 豚流行性下痢(PED)病原病理学的診断法とその問題点. 鹿児島県家畜疾病診断研究会会報. 53:13-18(1996)
7	末吉益雄. 豚流行性下痢(PED)の疫学的特徴と診断法. 日本養豚学会-鹿児島支部だより. 36:19-24(1996)
6	末吉益雄, 田中省吾, 大宅辰夫. 子牛のクリプトスポリジウム感染症. 鹿児島県獣医師会会報. 9:28-31(1996)
5	岩下幸二, 前野郁子, 西田浩二, 渡辺学, 山崎嘉都夫, 牧内浩幸, 大藪浩之, 末吉益雄, 津田知幸, 中澤宗生. 豚流行性下痢による哺乳豚の多数死亡例とその対策. 鹿児島県家畜疾病診断研究会報, 50:8-12(1995)
4	末吉益雄. 急性ウイルス性新生子豚下痢症候群の病理学的検討. 鹿児島県家畜疾病診断研究会会報. 50:12-16(1995)
3	末吉益雄. 動物疾病における電顕利用. Nano. 8:12-15(1995)
2	末吉益雄. Attaching and effacing <i>Escherichia coli</i> (腸管接着性微絨毛消滅性大腸菌)感染鶏雛の腸管粘膜病変部の電子顕微鏡観察像.黎明(化血研所報). 4:i-ii(1995)
1	末吉益雄. <i>Treponema hyodysenteriae</i> の幼雛実験感染による盲腸病変からみた豚赤痢の発生機序に関する一考察. 鹿児島県家畜疾病診断研究会会報. 38: 1-3(1990)